

# 現代ギリシア語と日本語における 「金持ちと貧乏」に関する諺の対照研究

浮田 三郎

はじめに

両国民にとって、諺の世界に現れる「金持ちと貧乏」の意味は何であろうか。当然、今までどんな国でも貧乏人がいて金持ちがいたし、現在もそうである。資本主義の国ではもちろん社会主義の国でもそうであろう。

諺の世界では、金持ちの心、貧乏人の心、金持ちと貧乏人の関係、その状況がある時は厳しく、ある時は面白く表現している。

本稿は、現代ギリシア語と日本語における「金持ちと貧乏」に関する諺を対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類似点と相違点、さらに、民族的、文化的な背景を考察しようとしたものである。

ただ、今回は、日本語の諺については十分な検討ができなかったので、主として現代ギリシア語の諺を考察することにし、日本語の諺の例は参考として参照することにする。以下、日本語の諺には(J)の符号を付して示すことにする。

なお、本稿は去る 2005 年 10 月 29 日に広島大学で行われた日本ギリシア語ギリシア文学会において研究発表したものに、先輩諸氏の意見などを参考にし、加筆修正したものである。

## 1 金持ち

金持ちあるいは「お金」に対する考え方は、万国共通であるところが少なくないが、諺の表現の仕方には、興味ある差が見られる。

### 1、1 金持ちの様／態度

金持ちの様子が次のような比喻表現を使って表現されている。

(1) 'Οποιος έχει πολλά χρήματα, καλά καβαλικεύει.

沢山お金をもつ者は、上手に馬に乗る。

(2) 'Οποιος έχει πολύ πιπέρι, βάζει και στα λάχανα.

沢山コシヨウをもつ者は、野菜にもかける。

- (3) 'Οποιος έχει τα φλουριά κάθε κίνδυνο απαντά, τα στραβά τα κάνει ίσα και τα άνομα καλά.

フロリーノ金貨をもつ者は、全ての危険に答え、不正も悪事も同じく上手にする。

- (J1) 金さえあれば飛ぶ鳥も落ちる  
(J2) 金が物を言ふ  
(J3) 金の世の中  
(J4) 金持ち喧嘩せず  
(J5) 金持ち金を使わず

(3) では、金持ちは、悪事も含めて、全てのことを上手にこなすことを表現している。ギリシア語で「全能である」(είναι παντοδύναμος)と説明が付けてある。それに対して、(1)と(2)は、さらに面白い比喻表現を形成している。大金を持つものは何でもできるのであろうか。無駄使いもできることを暗示している。大金を操り何事も上手にこなす様子が表現されている。

日本でも(J1、J2、J3)のように、金の力が協調されているが、(J4、J5)のように金持ちの余裕とケチの様子も表現されている。

## 1、2 金の威力

1、1でも、見たように、金持ちは何事も金の力ですることができる。さらに、大金持ちは、

- (4) Το πολύ βίος μάτια δεν βγάζει.

大きい富は破産しない。

- (5) Τα χρυσά φλουριά κάνουν λιθάρι την καρδιά.

金色のフロリーノ金貨は小石を心にする。

と、(4)では、大金持ちは、少々の出費や失敗では、容易には破産しないと言うのである。あるところにはあるものである。(5)では、財力は、小石のような取るに足らないものでも、感情をもつ心に変えるというのである。この心は良い心である。

このように、金、財力は大きな力をもつと表現している。

日本でも、次のような諺がある。

- (J6) 成るも成らぬも金次第  
(J7) 金さえあれば馬鹿でも旦那  
(J8) 金さえやれば行く先で旦那  
(J9) 金の光で馬鹿も利根に見える

## 1、3 金持ちの心配

しかしながら、金持ちには、金持ちの心配がある。次の(6)はまさにそれであろう。 όταν

φοβάται μη στερηθεί το πλούτο (財産を奪われないように心配する時) と説明が付加されている。頑丈な金庫も必要であろうし、警備も必要であろう。

(6) Δειλός ο πλούσιος.

金持ち臆病

(7) Ο βήχας κι ο παράσ δεν κρύβεται.

咳もバラも盗まれない。

(7) では、咳とバラの取り合わせが、面白い。バラとは、小銭のことである。金持ちは、バラのような小銭を持っていないので、盗まれようがない。もちろん、咳を盗む人はいない。

日本の場合も、次の (J12) のような面白い比喻表現も見られる。(J15) の場合は、必ずしも心配しているわけではないが。

(J10) 金持ち苦勞多し

(J11) 金持ちの泣き言

(J12) 金持ちと虱たかりはじっとしていられぬ

(J13) 金の持ち腐り

(J14) 金はあっても心配無くても心配

(J15) 金持ち小銭に困る

#### 1、4 金持ちの良心

日本のことわざでは、金持ちのことを批判する諺が多く見られるが、ギリシアの諺では、イメージが異なる。

(8) Έχει άσπρα και φλουριά

έχει και καλή καρδιά.

銀貨とフロリーノ金貨をもち

良い心ももつ。

これは、(5) と似通う内容であるが、金持ちは良心も持っているというのである。これは、日本の次の (J16、J17、J18) のようなイメージとは対照的である。

(J16) 金と塵は積もるほどきたない

(J17) 金持ちと灰吹きは溜まるほど汚い

(J18) 仏の光より金の光

#### 2 貧乏

一般的に、ギリシアでは、金持ちは日本に比べて評価されているようである(前述の1、3と1、4を参照)が、貧乏に関しても面白い諺を見ることができる。

## 2、1 貧乏の様子／態度

貧乏人の様子とそれに対する考え方は、金持ちの場合よりも頻繁に現れる。

- (1) Εμείς πεινούμε και τα σκυλιά κουλούρες σέρνουν.  
我々は餓え、犬どもはクルーラを引く。
- (2) Του φτωχού το εύρημα, η καρφή η πέταλο.  
貧乏人の発見物は、釘か花びら。
- (3) Η φτώχεια θέλει προμήθεια.  
貧乏は貯えを望む。
- (4) Η αρχοντιά τέχνη μάθαινε κι η τέχνη εκαμάρωνε.  
高貴が技術を学び技術が自慢する。
- (5) Του φτωχού τ' αρνί, κριάρι δε γίνεται.  
貧乏人の仔羊は、雄羊にならない。
- (6) Του φτωχού τ αυγό πουλί δε βγάζει.  
貧乏人の卵は鳥を出さない。
- (7) Το χορταστικό ψωμί από μάκρυνά το γνωρίζω.  
ボリュームたっぷりのパンは速くから分かる。
- (8) Του φτωχού τ αμπέλι στη μέση και το σπίτι στην άκρη.  
貧乏人のブドウの木は中央に、家は端っこに。
- (9) Φτωχού καμπάνα δεν αχάει, πλούσιου δεν ανασαίνει.  
貧乏人の鐘は失い、金持ちのは休まず。

(1) では、ギリシアの街角のクルーラ売りの姿が想起される。クルーラは、街角の屋台などでも売られているドーナツのような形をした安物のパンである。我々は飢えているのに、犬たちは取りあえずクルーラを手に出している。いつもはそんなに食いたいと思わないのに、今はそれさえ買う金がないのであろうか。皮肉である。

(2) では、貧乏人がやっと何かを発見したが、それは、何の役にも立たない釘か花びらであったという。不運なものがまた不運に遭うというのであろう。これには、με έννοια διπλή. Της ατυχίας και του τόπου, της φτωχογειτοιάς όπου ζει ο φτωχός. (二つの意味。不運の意味と貧乏人が住む貧民街の意味) という説明が付け加えられている。

日本でも、次の(J1、J2)、さらに、やや趣は異なるが、(J3)のような面白い比喩表現が見られる。

- (J1) 稼ぐに追いつく貧乏神
- (J2) 稼ぐに追いつく貧乏なし
- (J3) 泣き面に蜂

そして、(3) では、貧乏人ほど貯蓄をしたがるという。何年も掛かって蓄えた貯金の額も、金持ちが一晩で使ってしまう飲み代にもならないことがよくある。

(4) では、注に、無能で貧乏な人(ανάξιοι και φτωχοί)の比喩とある。分かりにくい比

喩であるが、高貴さが技術を学ぶと、その技術はますます自慢するばかりで、何の役にも立たず、無価値で貧乏なことだけが残るということであろう。

趣意は異なるが、次の（J4、J5）をこれと比べてみたい。

（J4）貧すれば鈍する

（J5）学者の取った天下なし。

（5）では、貧乏人は、子牛を養う充分な餌を買い与えることもできないのであろうか、雄牛になる前に食べられてしまうからであろうか。いずれにしても、この運命の下に生まれた者は不運を背負っているというのである。（6）も、（5）と同様である。貧乏人の卵はその栄養不足から孵化しないのであろうか、あるいは、孵化を待たずに食べられてしまうのであろうか。日本の諺（J1、J2）と対比してみたい。

（7）では、お腹を空かした者には、ボリュームたっぷりのパンは、その様子からまた香りから、遠くからでも分かるというのであろう。一見して分かるということであろう。

（8）では、ブドウの木は、ブドウを産し、糧を与えてくれ、大切であるが、それを大切に守るために、住むべき家は小さくて端の方にある。次の（J6）と関連付けて、何となく、情景が浮かんでくるであろう。

（J6）貧乏ひまなし

（9）では、貧乏人の教会の鐘はいつの間にかなくなってしまい、金持ちのそれは、休まず鳴らされている。前者は、貧乏故に何かに利用されたのであろうか、盗まれたのであろうか。διαφορά πλούσιου-φτωχού（金持ち-貧乏人の相違）と説明があり、教会の鐘の様子で貧乏人と金持ちを対照している。

日本の場合、（J1、J7、J8）と対照して考えると面白い。

（J7）貧は諸道の妨げ

（J8）貧の盗み

## 2、2 貧乏のもと

貧乏は、（2）などのように、そういう運命の下に生まれる場合が多いが、貧乏でない人が貧乏になるには、何か原因がある。その一つが、（10）であるという。

（10）'Οπου φτώχεια εκεί και γκρίνια.

貧乏のあるところに口論あり。

（11）'Ετσι χάσεις το πουγγί σου, όλοι οι φίλοι είναι εχθροί σου.

お前はこうに財布を失い、全ての友は敵である。

日本にも、次のようなものがあり、貧乏の原因には、喧嘩の他に、朝寝、夜更かし、酒などが挙げられている。

（J9）朝寝する者は貧乏性

（J10）酒と朝寝は貧乏の近道

（J11）家内の不和は貧乏神の定宿

(J12) 夫婦喧嘩は貧乏の種蒔

(J13) 夫婦喧嘩もないから起きる

(J14) 金の切れ目が縁の切れ目

などと、よく似たものがあるが、どちらが先か。次の(11)は、上記の日本の諺では、(J13、J14)と通うものがあるが、金がなくなれば、今まで仲良かった友も離れていくと言うのである。それにしても全ての友が敵となるとは、極端すぎる感じがする。日本では、そこまでは言わないが、人間関係においても金の役目は大切だと表現している。

## 2、3 精神的苦痛

貧乏は、空腹だけではなく、精神的な苦痛も与える。

(12) Η φτώχεια χαμηλώνει τ' αυτιά.

貧乏は耳を下げる／低くする。

(13) Η φτώχεια κρύφεται στη στάχτη.

貧乏は灰の中に隠れる。

(12) では、犬の様に喩えて擬人的に表現している。ここにも、ταπεινώνει (辱める／卑しめる) と説明が付加されていて、貧乏が犬のように耳を下げて恥ずかしそうな様子をしているのが想像される。(13) も同様に、中に入って少しも心地よさそうにもない灰の中に隠れるという恥ずかしい思いを表明している。

このように、貧乏は、屈辱的な精神的苦痛を与えると表現している。

日本では、次の(J15、J16)のように、ギリシア語の場合と趣が異なるが、苦痛を訴えている。

(J15) 貧ほどつらいものはなし

(J16) 四百四病より貧の苦しみ

## 2、4 貧乏と運命

その星の下に生まれた者は、金持ちであったり、貧乏人であったりするという。運命である。

(14) Όπου φτωχός κι η μοίρα του.

貧乏人のいるところに運命あり。

(15) Δεν έχει στον ήλιο μοίρα.

太陽の中に運命は無し。

(16) Δεν έχει ο φτωχός, αλλά έχει ο θεός.

貧乏人はもたないが、神は持つ。

(17) Του φτωχού πουλιού τη φωλιά, ο Θεός τη φτιάχνει.

貧乏な鳥の巣は、神が造る。

(14) では、(2)と同様に、貧乏人の運は、それに合ってやって来るというのである。

(15) では、神の下には運命は平等のはずである。逆説的である。神の下には、貧乏の運命、金持ちの運命というものはないというのである。では、それぞれの個人の運命はどこにあるのであろうか。それは、この世にあるというのであろうか。(16) では、当然、貧乏人は、持たないから貧乏である。しかし、神は持っているというのである。そして、神に御願いしても、金持ちにはなれない。このように、ギリシア語では、諷めに近い表現をするとき、神が顔を出す。(cf. ο θεός έχει. 神が持つ。ο θεός ξέρει. 神が知る。)

日本でも、(J17) ように、この世の運命を暗示している。(J1) は、前にも見たが、このような神を貧乏神とよぶ。

(J17) 貧は世の常

(J1) 稼ぐに追いつく貧乏神

しかし、(17) のように、神は貧乏な鳥の巣は作ってくれる。一見して貧乏な鳥の巣と分かるような巣であろう。

## 2、5 貧乏の高望み

貧乏だからこそ、望みも高く見えるのではなかろうか。

(18) Εμείς ψωμιά δεν έχουμε και αγγινάρες θέλουμε.

我々にはパンが無くてアングナーラが欲しい。

(19) Η φτώχεια θέλει καλοπέραση.

貧乏は裕福な生活を望む。

(18) では、パンもないほど貧乏なのに、買うこともできそうにない高級野菜のアングナーラを欲しがるといふ(アングナーラは高級な野菜)。ハングリー精神は人を上昇させるのに必要なものであるが、それも時と場所によっては、皮肉である。

(19) は、(18) と同様で、ストレートに表現してあるが、ξέσπασμα των στερουμένων(貧乏人の急変)との注があり、実際に貧乏人が急に裕福になることもあるというのであろう。

日本にも、次のようなものがある。

(J18) 高嶺の花

## 2、6 貧乏も好いもの

貧乏もまた気楽で好いものであり、金持ちは益々欲張りになる。

(20) 'Όπου' χε τα πολλά έκόλαιγε, όπου' χε και τα λίγα κι όπου δεν είχε τίποτα καθόταν και τραγοίδα.

沢山もっているところで嘆き、少しだったり少しももっていなかったりすると、座って歌を歌っていた。

(21) Φτωχός και τιμημένος.

貧乏で尊敬される人。

(20) も、皮肉といえは皮肉である。金持ちは、いつも持ちたいと思っているため、少しでも失うと、それがなくなったことをあるいはもつと欲しいと嘆き、貧乏人は元々何も持っていないのだから、ないからと言って嘆いたりしない。楽しく歌でも歌っていることができるというのである。後者の方が気楽だというのであろう。

(21) のような人もこの世には少なくない。いや、今は少なくなっているであろうが、日本では、

(J19) 貧乏人の子沢山

(J20) 貧の樂は寝樂

(J21) 貧乏するほど樂をする

(J22) 貧乏こはいものなし

のように、貧乏の楽しさを強調しているが、これらは、慰めに近い。

## 2、7 貧乏は福のもと

上述に続いて、貧乏が幸福という諺も見つかる。いや、神に持たせて、諦めの境地であろうか。

(22) Η φτώχεια τέχνη βρίσκει.

貧乏は技術を見つける。

(23) Η φτώχεια τέχνη εμάθαινε κ' η αρχοντιά καμάρι.

貧乏は技術を身に付け高貴は自慢を身に付ける。

(24) Δεν έχει πού την κεφαλή κλίνει.

頭を傾けるところには在らず

(25) Φτωχός φτωχη αγάπησε και Θεός τα πλούτη έδωσε.

貧乏人は貧乏を愛し、神は富を与えた。

(22) では、英語の「必要は発明の母」という諺を想起させる。σπρώχνει σε ευρηματικότητα (創造力の点で押し進める) と説明があり、貧乏で何とかしようとする精神が技術をみつけ、何かを創造するというのである。(23) では、(4) でも見たように、貧乏は必要の母ともなり得るが、高貴さが自慢だけを身につければ、哀れなことになるということであろう。貧乏でも、技術を身につけても、謙虚でありたいものである。

(24) は、福音書(ευαγγελικό)と注があり、頭を枕につけて何もしないで寝ている者は、金持ちにはなれないというのである。「天は自ら助くる者を助く」を逆に表現したものである。(25) では、貧乏人は貧乏としてこれを愛し、それなりに生活していれば、神が幸福という富を与えてくれるというのである。

日本では、貧乏神に続いて幸福の神もでてくる。

(J23) 貧乏は達者の基

(J24) 貧は世界の福の神

日本でも、趣は異なるが、神が表現されているのが興味深い。

## おわりに

以上、日本語と現代ギリシア語における「金持ちと貧乏」に関する諺を対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類似点類と相違点、文化的な背景を検討してみた。

一見して、ギリシアでは、金持ちに関する諺より貧乏に関する諺の方が多いことが分かる。これは、矛盾しているような感じもするが、庶民の間では貧乏に関する関心があったことを物語っている。これは、日本語の諺から見る庶民の関心度は、逆の現象で、ギリシア語の場合とは大きな差が見られる。

また、金持ちに対するイメージは、ギリシアの場合は良い点を強調してその力に言及しているのに対して、日本の場合は金と欲の汚さを批判的に強調するものが印象深い。

さらに、ここにふんだんに現れる比喩表現は、諺の最も代表的な表現形式と言ってよいが、両国の諺の比喩表現の仕方には、両国民の生活、文化を反映しているような比喩の対象が利用されていて、興味深い (cf. レイコフ, G. 1986)。以上で述べてきたように、それぞれのテーマに関わる比喩表現は、両国民のものの考え方をみせてくれている。

## 参考文献

### (和書)

- 石垣幸雄 (1986) : 『世界のことわざ・1000 句集』、自由国民社
- 浮田三郎 (1988) : 「日本語と現代ギリシア語 (方言) の諺対照比較研究—諺に見られる素材を中心に—」、『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、pp59-64
- 浮田三郎 (1989a) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (2) —素材「女」の見られる諺を中心に—」、『広島大学教育学部紀要』、第 2 部、第 37 号、広島大学教育学部、pp301-309
- 浮田三郎 (1989b) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (3) —素材「水」の使われたる諺を中心に—」、『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、pp9-18
- 浮田三郎 (1989c) : 「日本語とギリシア語の諺対照比較研究 (4) —諺の中に使用されたる「動物」(1) —」。『広島大学教育学部紀要』、広島大学教育学部、pp289-293
- 奥津文夫 (1978) : 『ことわざ・英語と日本語』、サイマル出版
- 金子武雄 (1982) : 『日本のことわざ』 (全 4 巻)、海燕書房、(一) 評釈、(二) 続評釈、(1983) : (三) 評論、(四) 概説・講説
- 関本至 (1983) : 「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」、『レトリックと文体』 (古田敬一 編)、丸善株式会社

- 尚学図書編集 (1982) : 『故事俗事ことわざ大辞典』、小学館
- レイコフ, G., ジョンソン, M. (渡邊昇一、他訳) (1986) 『レトリックと人生』、大修館書店
- (洋書)
- Βενεζέλου, I., 1965 *Παροιμίες του Έλληνικού Λαού*, Φοιτητική Γωνιά, 'Αθήναι,
- Μιχαήλ, Μαρία-Δέδε, 1981 *2500 Έλληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα)*, Σπύρος Ν. Μπογίτης, 'Αθήνα,
- Rohlf, G., 1971 *Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialecten*, München
- Smith, William George, 1952 *The Oxford Dictionary of English Proverbs*, The Clarendon Press, Oxford
- Τριανταφυλλίδη, Μανόλη 'Α., *Παροιμιακές Φράσεις από την Ίστορία και τή Λογοτεχνία*, 'Αθήνα
- Ukida, Saburo ( 1997-8) : A Contrastive Study on the Proverbs Related to Learning in Japanese and Modern Greek, *Intercultural Communication Studies VII-2* pp.107-127